

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

$\pi=3.141592653\ldots$

No20：「情報を得る」ことについて考えてみた

令和7年11月20日

墨田区立柳島小学校

校長 近藤 幸弘

柳島小学校算数担当

●「教科書を読めない…」という有名な本がありますね。

私もこの本を読み、危機感を覚えました。そこで、教科書をしっかりと「読み取る」ように指導しています。例えばこんな感じです。(T：算数担当、C：児童)

- ・例1 「〇〇とここに書いてあります。」

4年「垂直・平行と四角形」。四角形の辺の並び方(平行な辺の組)を調べていく中で、「向かい合った2組の辺が平行な四角形が平行四辺形」という「平行四辺形の定義」を指導します。

T：(向かい合った辺が平行であることを、一組ずつ画面で示して) このような四角形を何と言いますか？

C：「平行四辺形」と言います。

T：何で知っているの？

C：(該当部分を指して) ここに書いてあります。向かい合った辺が…(教科書にある平行四辺形の定義の文を読む)

T：平行四辺形の定義の文を見つけましたね。よく読み取っています。(…授業は続く)
「向かい合った」「2(ふた)組」「辺(2年で学習)」「平行(4年で学習したばかり)」という算数用語をたくさん用いて、平行四辺形を定義しています。教科書にある言葉とその意味をしっかり読み取れていないと、上記黄部分の問い合わせに「ここに書いてある」と答えることができません。「ここに書いてある」という反応を、「できて当然」と考えるのは適切ではなく、「意味が分かっているから言える」と思うべきでしょう。漠然と教科書を「眺め」、言葉・文の意味をきちんととらえていない子は、意外と多いです。

- ・例2 作図・器具操作を「見取る」

同じく4年「垂直・平行と四角形」です。垂直・平行・平行四辺形の作図の手順を、デジタル教科書の動画を何回も見せて真似するように指導しています。また、四角形の対角線の性質を調べる学習活動では、コンパスで線分の長さを測り取る方法、そのコンパスの開きを別の線分に当てて長さが等しいか判断する方法…何度も何度も見せています。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」であるという考え方があります。「真似ぶ」＝「真似る」です。見て真似て学ぶ…昔から行われている学習方法の一つです。

ちなみに「定義」という言葉を、私は授業でよく使います。「定義」というのは、『用語の意味』だよ。算数・数学では定義を『約束事』として勉強を進めていくよ」と説明しています。教科書では、「定義」を学習した後に「性質」を調べていくという授業展開が多いです。このことも同時に指導しています。

読み取る・見取る・聞き取る…「自分で情報を得る力」は、人が本来備えているはずの能力です。日頃から高めていきたいと、いつも思っています。